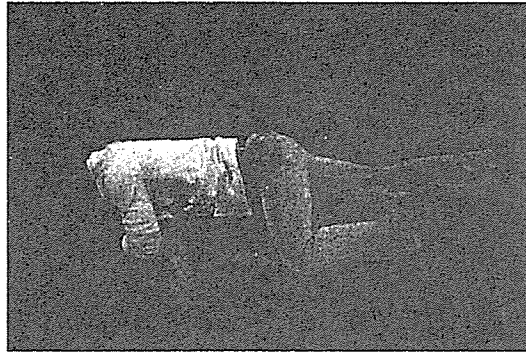


⑧ 回復体位について

下顎を前に出し、両肘を曲げ上側の膝を約 90 度曲げて、患者が後ろに倒れないようにします。回復体位は、意識がない患者の舌根が沈下したり、嘔吐した場合の気道閉塞を防ぐ目的で行います。



回復体位

[体動と呼吸確認後の対応]

- ① 体動あり、呼吸あり ⇒ 回復体位
- ② 体動あり、呼吸なし ⇒ 心臓マッサージと人工呼吸を継続

J. 救急隊への引継ぎ要領

一般目標

患者に接触してから救急隊に引継ぎまでの出来事を、順序立てて要領よく説明できる

個別目標

以下の項目を順序立てて説明できるようになる

- ① 目撃情報
- ② 観察結果
- ③ 処置内容
- ④ 除細動の回数



救急隊への引継ぎ要領の実際

・以下の項目を順序だてて、整理して言えるようにしましょう

- ① 目撃情報: 患者が倒れるまで何をしていたか(心原性か非心原性かを推定)
- ② 観察結果: 意識なし、呼吸なし等
- ③ 処置内容: 心肺蘇生法、除細動、回復体位等
- ④ 除細動の回数: その後の救急隊の救急活動に必要となります

B. シナリオステーションの指導要領

今までの学んだ手技と手順を確認するためには、受講生により身近なテーマを用いて心肺停止のシナリオを想定して訓練することが効果的です。

1) 一般目標

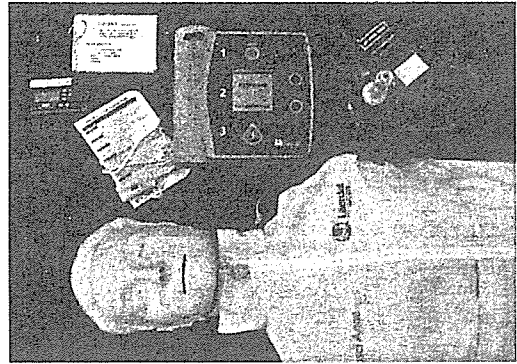
シナリオを使った想定付与ができる。

シナリオの進行を止める指導、止めない指導を区別して指導できる。

適切なフィードバックを行うことができる。

2) 指導の進め方

- ・ 指導者はシナリオを提示して、受講生に行ってもらいます。
- ・ 準備するもの
心肺蘇生法人形、AED トレーナー、フェイスシールド、ポケットマスクなど



〈1. シナリオの進め方〉

シナリオは、その職域に近い想定を選定すると、より理解しやすくなります。AED トレーナーのシナリオと整合性がとれるようなシナリオをつくります。受講者の背景に合わせて、色々な状況を設定するとより学習効果が高まります。シナリオはなるべくシンプルにした方が受講者にとって理解しやすくなりますのでシナリオが複雑にならないように注意しましょう。

想定のパターン例 〈状況〉

あなたはスポーツジムにトレーニングに来ました。すると突然、ロッカールームのシャワー室で大きな音がしました。様子を見に行くと、40歳くらいの男性が倒れています。このスポーツジムには AED が設置されています。

受講生A:「現場は安全ですか」

指導者 :安全です

受講生A:「わかりますか?」

指導者 :反応がありません

受講生A:「この人は意識がありません、誰かいますか!」

受講生B:着替え中の男性が駆け寄る

受講生A:受講生Bに対して

「この人は意識がありません、119 番に通報してください。その後 AED を持ってきてください。」

受講生B:「わかりました」

受講者A:「気道を確保します。」「呼吸の確認、見て、聞いて、感じて、4、5、6・・・」

指導者 :呼吸はありません

受講者A:「呼吸なし、人工呼吸」

受講者A:「心臓マッサージを始めます。1. 2. 3. 4 . 5・・・30、人工呼吸・・・」

受講者B:「119 番通報しました、AED を持ってきました。」

受講者A:「あなたは心肺蘇生法ができますか?」

受講者B:「はいできます」

受講者A:「では心肺蘇生法を代わってください。」

受講者Aは AED の操作を始める。

指導者 :傷病者の身体は濡れていますよ

受講者A:「身体が濡れているのでタオルで拭きます」

AED トレーナーのメッセージに従って AED を操作します。

受講者A:「除細動をします。みんな離れてください!」

受講者A:「心臓マッサージ:人工呼吸=30:2 で5 サイクル(2 分間)実施します」

指導者 :ゴホゴホと咳き込み、心肺蘇生ダミーの手を動かす

受講者A:「体動があります。」

受講者A:「呼吸の確認」

指導者 :呼吸あります、意識はありません。

受講者A:「回復体位にします。」

指導者 :救急隊が到着しました、状況を説明してください。

〈2. 指導者が状況を追加する内容の例〉

① 貼付剤

「何か胸に貼ってありますね、何でしょうか」
あらかじめテープを模擬的に貼っておくとよい

② 埋め込み型ペースメーカー、埋め込み型除細動器

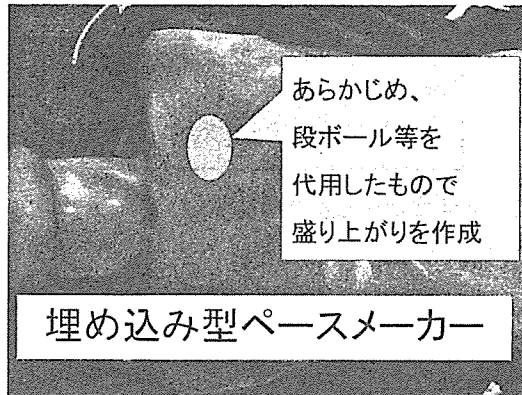
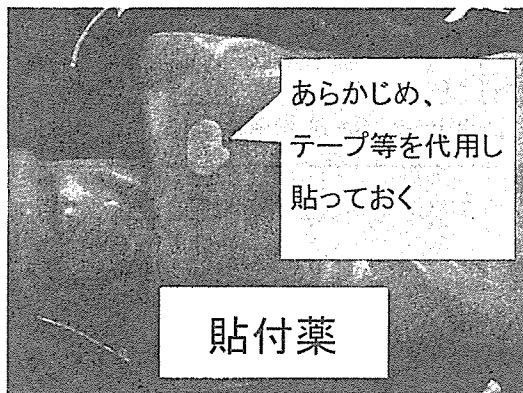
「ペースメーカーが埋め込まれているようです」
埋めこんであるように盛り上がりをつくっておくとよい。あるいはダミーのペースメーカーを用意しておくものよい。

③ 胸毛

「胸毛が濃くて、パッドが密着しません」

④ 汗・水

「運動をしていたので、大量の汗をかいています。胸も濡れています」
「入浴中でしたので、体が水で濡れています」
タオルなど清拭する物品を用意しておき実際に、拭いてもらうなど、実践的に行うと学習効果が高まります。



3) 指導のポイント

① 受講生の行動がとまってしまった場合は(頭が真っ白になっている場合)すぐに答えを言わずに誘導して行動を導くと良いです。どうしても行動に移れない場合は、問い詰めたりすることなく答えを言って進めます。

例)「次は何でしたか？」

「ここまで呼吸の確認と心臓マッサージまで終わりました。次は？」

「そうです AED の装着ですよ。やってみましょう」

② 手順が理解できていない場合

受講生が手順を理解していない場合は、すぐに行動を止めて質問し、理解度に合わせて進めていくと良いでしょう。

例)「少し混乱しているようですね。今行っているのは何ですか？呼吸を確認して、無ければ人工呼吸を行いましょう」

⑤ 重要な処置を忘れた場合

119 番通報や気道確保など、重要な処置を忘れてしまっているときはできるだけ流れの中で気づかせてあげるようにします。

例)「救急車を呼びましたか？」

「胸が上がりませんね。人工呼吸の前に何か忘れていませんか？」

〈3. シナリオ例〉

以下のようなシナリオをあらかじめ準備しておくことで受講生が理解しやすい

〔①一般市民対象シナリオ例〕

<p>シナリオ1 ※準備:汗</p> <p>あなたは今、ジョギング中です。すると、前を走っていた中年の男性が胸を押さえながら倒れ込みました。幸い、近くの公園にAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着、患者の身体濡れている →SHOCK →2分間CPR中、体動(+) →呼吸(+) →回復体位 →救急隊到着</p>	<p>シナリオ2</p> <p>あなたは野球観戦に来ています。隣に座っていた60歳代の男性が急に倒れこんでしまいました。この野球場にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着 →SHOCK →2分間CPR中、体動(+) →呼吸(ー) →人工呼吸のみ継続 →救急隊到着</p>
<p>シナリオ3 ※準備:貼付薬</p> <p>あなたが駅の階段を上っている最中に、目の前のおじさんがうめき声を上げながら倒れこみました。この駅にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着、傷病者の身体に貼付薬が貼られている →SHOCK →2分間CPR中、変化なし →SHOCK →2分間CPR →救急隊到着</p>	<p>シナリオ4 ※準備:胸毛</p> <p>あなたは海外旅行に行くために空港にいます。すると外国人と思われる60歳代の男性が急に倒れこみました。この空港にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着、傷病者の胸毛がすごい濃い →SHOCK不要波形 →2分間CPR →SHOCK不要波形 →2分間CPR →救急隊到着</p>

〔②教諭対象シナリオ例〕

<p>シナリオ1 ※準備:水</p> <p>あなたは、職員室から廊下の中、帰宅する生徒を見ていました。すると突然、目の前で大きな音とピッカという光がしました。外に目をやると、生徒が一人倒れています。この、学校にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着、患者の身体濡れている →SHOCK →2分間CPR中、体動(+) →呼吸(+) →回復体位 →救急隊到着</p>	<p>シナリオ2</p> <p>あなたの学校で運動会が開催されています。準備体操を始めた選手が急に苦しそうな声を上げ胸を押さえながら倒れました。この学校にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着 →SHOCK →2分間CPR中、体動(+) →呼吸(ー) →人工呼吸のみ継続 →救急隊到着</p>
<p>シナリオ3 ※準備:貼付薬</p> <p>あなたの学校の学園祭で、突然目の前の40歳代の男性が声を上げながら倒れました。学校内にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着、傷病者の身体に貼付薬が貼られている →SHOCK →2分間CPR中、変化なし →SHOCK →2分間CPR →救急隊到着</p>	<p>シナリオ4 ※準備:胸毛</p> <p>あなたの学校にはアメリカからやってきた、英語の先生がいます。その先生が急に意識を失い倒れてしまいました。この学校にはAEDが設置されています。</p> <p>意識・呼吸(ー) →CPR →AED装着、傷病者の胸毛がすごい濃い →SHOCK不要波形 →2分間CPR →SHOCK不要波形 →2分間CPR →救急隊到着</p>

〔③看護師対象シナリオ例〕

シナリオ1

※準備:水

あなたは、病院勤務で50歳代男性の患者さんの入浴介助をしていました。入浴後、体を拭いていると、この患者さんが急に意識を失い倒れ込みました。この病院にはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸・脈拍(－)
- CPR
- AED装着、患者の身体濡れている
- SHOCK
- 2分間CPR中、体動(＋)
- 呼吸(＋)
- 回復体位
- Dr到着

シナリオ2

※準備:ペースメーカー

あなたが病院の循環器科病棟の廊下を歩いていると、前を歩いていた60歳代男性の外来患者さんが急に胸を押さえて倒れ込みました。この病院にはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸・脈拍(－)
- CPR
- AED装着、胸部に盛り上がりがある
- SHOCK
- 2分間CPR中、体動(＋)
- 呼吸(－)
- 人工呼吸のみ継続
- Dr到着

シナリオ3

※準備:貼付薬

あなたは病院の階段を上っています。すると、前を上っていた60歳代男性が急に胸を押さえて倒れ込みました。この病院にはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸・脈拍(－)
- CPR
- AED装着、傷病者の身体に貼付薬が貼られている
- SHOCK
- 2分間CPR中、変化なし
- SHOCK
- 2分間CPR
- Dr到着

シナリオ4

※準備:胸毛・ネックレス

あなたが病院の廊下を歩いていると、前から歩いてきた50歳代男性の外国人が急に倒れました。この病院にはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸・脈拍(－)
- CPR
- AED装着、傷病者の胸毛がすごい濃い
ネックレスをつけている
- SHOCK不要波形
- 2分間CPR
- SHOCK不要波形
- 2分間CPR
- Dr到着

〔④スポーツインストラクター対象シナリオ例〕

シナリオ1

※準備:汗

スポーツジムでトレーニング中の男性が急に意識を失って倒れてしまいました。このジムにはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸(－)
- CPR
- AED装着、患者の身体濡れている
- SHOCK
- 2分間CPR中、体動(＋)
- 呼吸(＋)
- 回復体位
- 救急隊到着

シナリオ2

準備:水・胸毛

トレーニングを終えた男性がシャワーを浴びている最中に急に倒れこみました。このジムにはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸(－)
- CPR
- AED装着、傷病者の身体濡れている、胸毛すごい濃い
- SHOCK
- 2分間CPR中、体動(＋)
- 呼吸(－)
- 人工呼吸のみ継続
- 救急隊到着

〔⑤弁護士対象シナリオ例〕

シナリオ1

準備:ペースメーカー

最高裁判所にて弁護中に、クライアントが急に胸を押さえて倒れこみました。この法廷にはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸(－)
- CPR
- AED装着、胸部に盛り上がりがある
- SHOCK
- 2分間CPR中、体動(＋)
- 呼吸(－)
- 人工呼吸のみ継続
- 救急隊到着

シナリオ2

自分の法律相談事務所にてクライアントの相談中に、クライアントが急に意識を失い倒れこみました。この事務所にはAEDが設置されています。

- 意識・呼吸(－)
- CPR
- AED装着
- SHOCK不要波形
- 2分間CPR
- SHOCK不要波形
- 2分間CPR
- 救急隊到着

第4章 よくある質問Q&A

BLS+AED 講習会の際に、よくある質問と回答の例を以下に提示しますので、インストラクションの際の参考にしてください。

Q1：携帯電話から 119 番に通報できるのですか？

A：通常の電話と同様、できます。しかし、一般の家庭の電話と異なって、機能上どこからかかっているのか特定することはできません。場所によっては災害地点の行政地域を管轄する消防本部と異なる消防本部につながる場合がありますが、転送によって管轄の消防本部につながりますので住所、目標になる建造物などを正確に伝えることが大切です。

Q2：心肺蘇生法を必要とする傷病者に遭遇したとき、119 番通報が先ですか、心肺蘇生法の実施が先ですか？

A：救助者が 1 人の場合、成人ではまず 119 番通報した後に心肺蘇生法を行ってください。それに対し小児ではまず 1 分間心肺蘇生法を行ってから 119 番通報してください。これは、成人では心臓が原因で心停止にいたることが多いので電氣的除細動を急ぐ必要があるのに対し、小児では呼吸停止から心停止になっていることが多く、直ちに有効な心肺蘇生法を行うことが大切だからです。また、救助者が 2 人以上いる場合は、119 番通報と心肺蘇生法とを並行して行ってください。

Q3：厚着をしていると心臓の位置を確認しにくいのですが、服を脱がせた方が良いでしょうか？

A：全部服を脱がせる必要はありません。肋骨の下縁を迫る位まで脱がせれば十分です。

Q4：心肺蘇生法を実施する時に、出血を伴っていたら止血と心肺蘇生法のどちらを優先するのですか？

A：大量の出血がある(鮮血が噴水のように出る)場合は、止血処置を先に行ってください。

Q5：心臓マッサージで肋骨が折れる事はありませんか？

A：肋骨以外の部分に指が触れないように注意して圧迫することが大切です。しかし、高齢では骨がもろくなってしまっていて、必要な圧迫を行うと肋骨のおれる場合が少なくありません。ですが折れないように軽く圧迫しては何の意味もありませんから、必要な圧迫を行ってください。

Q6：勘違い等により間違った応急手当をしたら訴えられることはありますか？

A：善意で実施した応急手当に関し、故意又は重大な過失がない限り訴えられる事はないと考えられます。以下にその根拠となる刑法、民法を示します。

・刑法第 37 条（緊急避難時）

救命手当は、「社会的相当行為」として違法性を問われず、故意もしくは、重過失でなければ法的責任はない。

・民法第 698 条（緊急事務管理）

悪意または重過失がない限り、善意で実施した救命手当の結果に救命手当の救助者が被災者などから責任を問われることはない。

Q7：毒物を飲み、意識がない時の応急手当はどのようにすればよいのですか？

A：嘔吐に備えた体位管理と飲んだ毒物の確保を行います。なお、呼吸、脈拍が停止状態であれば、心肺蘇生法が必要になりますが、この場合、一方弁付吹き込み用具又は人工呼吸マスク等を必ず使用し、救助者への 2 次災害防止を図ってください。

Q8：ペースメーカーを埋め込んである人にも心肺蘇生法を実施しても良いのですか？

A：その放置していれば当然死に至ることになるため、直ちに心肺蘇生法を実施してください。

Q9：AED はすべての心肺機能停止者に対して電気ショックをかけることができますか？

A：AED が必要と判断した場合のみ電気ショックを施行することができます。AED が電気シ

ヨックを不要と判断した場合は心肺蘇生を行ってください。

Q10: 溺水時の応急手当として、傷病者が水を飲んでいる場合は吐かせてから、必要な応急手当をした方が良いでしょうか？

A : 口の中に吐いた水などがあれば、顔を横に向けて取り除きますが、そうでなければいち早く人工呼吸を開始します。飲んだ水などは無理に吐かせる必要はありません。

Q11: 間違っAEDのショックボタンを押してしまった場合はどうなりますか？

A : 電気ショックが不必要な場合は、電気ショックが通電することはありません。

Q12: 外傷や頸髄損傷が疑われる際の気道確保は頭部後屈顎先挙上法でいいのですか？

A : 従来、外傷の傷病者には下顎挙上法という頸部を動揺させない気道確保を実施することになっていましたが、一般市民の方が下顎挙上法を実施することは困難ということで、しっかりと気道確保のため、外傷の有無に関わらず一般市民の方の気道確保は頭部後屈顎先挙上法を実施することになりました。医療従事者は明らかな頸髄・頸椎損傷が疑われる場合には下顎挙上法を実施します。

Q13: 昔は、心臓マッサージの圧迫位置は肋骨下縁をたどっていく方法で実施していましたがそれではいけないのですか？

A : 従来通り、肋骨下縁をたどっていく方法でも構いません。今の基準は心肺蘇生法を覚えやすく簡便なものにするために、乳頭を結んだ線と正中線の交点という基準ができました。高齢の女性や、乳頭を結んだ線と正中線の交点が判断しにくい際には従来の肋骨下縁をたどっていく方法が役に立つでしょう。

Q14: 小児と成人の場合で通報要領が異なるのはなぜか？

A : 成人では心臓に原因があって心停止を起こすことが多く、そのために出来るだけ早期の除細動が望まれます。したがって、一刻も早い119番通報が必要であり、小児の場合は呼吸停止引き続く二次的な原因による心停止が多いことから、心肺蘇生法を優先して実施することが必要であるため、心肺蘇生法を2分間継続実施してからの119番通報となります。

Q15: 従来は脈拍の確認や循環のサインの確認を行っていましたが、今回行わなくなったのはどうしてですか？

A : 従来は心肺蘇生法の項目に脈拍の確認がり、頸動脈の拍動の触知を行っていましたが、一般市民では、緊急の場で頸動脈を確認することが難しく、触れない場合も触れたと誤判断することが少なくありません。また、脈拍の代用として循環のサイン（息、咳、体動）がありました。一般の方に覚えやすいということから心配蘇生法を簡便なものにするためになくなりました。多くの場合、呼吸と心臓は補完的なものであり、心臓が停止すれば約1分後には呼吸も停止しますし、呼吸が停止すれば約5分から12分で心臓も停止します。そこで、呼吸の確認をし、呼吸がなければ心臓も動いていないと判断し心肺蘇生を開始することになりました。

Q16: 口対口人工呼吸を他人に実施することに躊躇します。心臓マッサージのみではいけないのですか？

A : 口対口人工呼吸は効果的な手技です。しかし、感染を恐れるあまりに、見知らぬ傷病者などへの口対口人工呼吸を実施することにどうしても躊躇する場合があります。この場合、心肺蘇生法を全く行わないよりも、心臓マッサージのみでも行うことが大切です。また、こういった感情の軽減や感染防御の観点から、フェイスシールドやポケットマスクといったツールを日ごろから携帯するとよいでしょう。

Q17: 胸にけががある場合、どこに電極パッドを貼ればよいのでしょうか？

A : けがの部位を避け、心臓を挟み込むように胸や背中などに貼ります。

第5章 デモンストレーションとデモンストレーションの解説

デモンストレーションは、受講者に対して、BLS+AED の正しい手技と手順を提示し知識の定着を図るために行われ、技術を習得するために迅速かつ有効であると言われています。

一般目標

- BLS+AED の正しいデモンストレーションを行うことができる。
- BLS+AED のデモンストレーションの解説を行うことができる

指導の進め方

- ・デモンストレーションを行いながら、デモンストレーションを行う上での要領を解説します。
- ・準備するもの
 - 心肺蘇生法人形、AEDトレーナー、ポケットマスクなど

〔デモンストレーションの要領と注意点〕

デモンストレーションを行うには、救助者が十分な技術を持ち、手順を理解していなければなりません。また受講者に対して十分なアピールができることが重要となります。

- ① 見せるということを意識して行いますのでという設定で何を目標とするかを示します。
- ② 手技や手順は大きく、ゆっくりとした声で言います。
- ③ 受講者に背中を向けないように注意します。
- ④ 関係者役など、救助者同士の声が重なり合わないようにします。

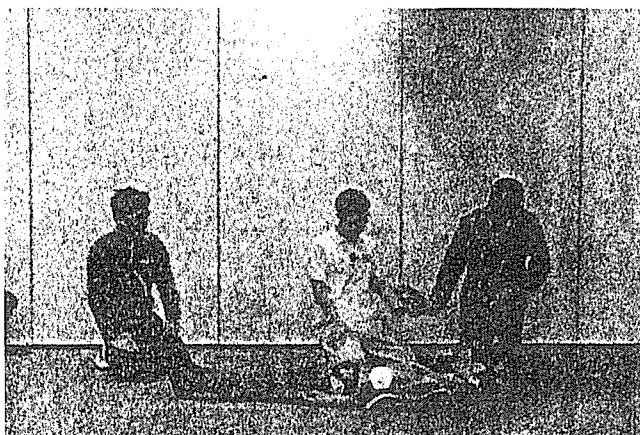
〔デモンストレーションの解説〕

行ったデモンストレーションを再現し、解説を加え、デモンストレーションの理解をさらに深め、記憶の定着化を図ります。

- ① 講義内容を引用しながら手順や手技を説明します。
- ② 意識確認、119 番通報、気道確保、人工呼吸、脈拍の確認(医療従事者)、心臓マッサージ、AED の使用という手順を分けて注意点や要点を説明します。
- ③ 細かな手技は説明することなく、全体の流れや要点のみを説明します。
- ④ 時間の管理に気を付けます。

〔デモンストレーション例〕

「第3章 指導技法各論」の「B. シナリオステーションの指導要領」の「3. シナリオ例」を参照して実施します。その時々、受講生の背景にあった身近な想定を選んで実施すると、受講生の興味も向上し学習意欲が増加します。あらかじめ、受講生の背景(職種、年齢など)を確認しておきましょう。



デモンストレーション解説

第6章 資器材の取り扱いとメンテナンス

BLS+AED コースで使用する資器材の取り扱いとメンテナンスについて解説します。

一般目標

- BLS+AED コースで使用する資器材の取り扱いができる
- BLS+AED コースで使用する資器材のメンテナンスができる

指導の進め方

- ・取り扱い説明を簡単に説明します
- ・実際に取り扱い、注意事項を確認してもらいます
- ・資器材のメンテナンスをしてもらい、注意事項の確認をしてもらいます
- ・準備するもの
心肺蘇生法人形、AED トレーナー、清拭用ガーゼ、消毒液など

1) AED の管理・説明のポイント

AED は小型・軽量化されたため使用するにあたり、ほとんどメンテナンスフリーな機械となりました。しかし、使う機会がいつあるかわからない機器であるため、いざという時の作動不良は許されません。したがって定期的に作動を確認することが必要です。

とくに AED の設置者は定期的に必要なときに AED が利用できるように責任をもって保守点検の管理を行う義務があることを強調します。

2) 外観/ケーブルのチェック

ケースの破損、色調の変化がないか、本体の破損、表示スクリーンの破損がないか、ケーブル、コネクタ部の破損なく、ケーブルは本体にしっかりと接続できるかなどをチェックします。

3) バッテリー

バッテリーは定期的にチェックしましょう。バッテリーの使用期限が切れていない事やバッテリー残量不足とならないように充電しましょう。充電ユニットやバッテリーが本体で充電できることを確認しましょう。

4) 付属品の確認

付属品が正しくセットされているかを確認します。電極パッドは2セットいつも用意しましょう。また、電極パッドが未開封で使用期限が切れていないことを確認します。ひげ剃り(ディスプレイザブル)や乾いたタオル、アルコール綿(ディスプレイザブル)やメモリーカード/音声記録装置は正しく作動するかも大事な点です。

5)作動確認

AED にはいつも正確に作動することが要求されます。このため、AED にはセルフチェック機能がついており、その結果がわかるようになっています。主な機能としてディスプレイは正しく表示されるか(一部機種のみ)、点滅するインジケータは正しく表示されるか音声メッセージはただしく出されるかなどです。

6)AED テスターでの検証

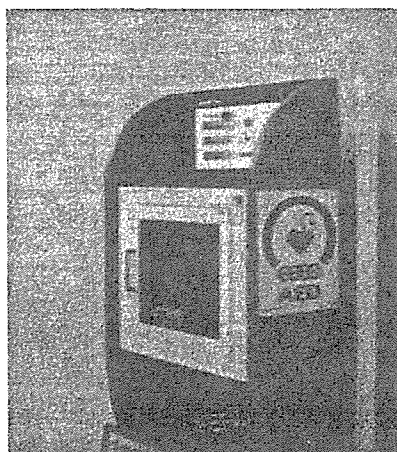
最終的には除細動する波形が重要です。ショックする波形が正しく確認されることやショックに必要なエネルギーがチャージされることも重要な点です。

以上のチェックを怠らず、いつも確実に作動する事を定期的を確認しましょう。

また、修理メッセージや判断にまよようなメッセージが出た場合には速やかに販売店のサービスマンと連絡をとり適切に修理をしましょう。

7)AED の設置場所と表示

AED を設置しなければならない場所は、必要なときに一般市民が活用できるように、AED を設置している建物の入り口付近にマークを表示し、標識によって設置場所を明示しています。看板などで AED の設置をわかりやすくしておくことも必要です。



AED 設置マーク例



AED 設置マーク例

8) AED 管理

AED の管理のためのチェックリスト(例)

シリアル番号 _____ 日時 _____ 時間 _____
機種 _____ 検査を行った者の氏名 _____

① 外観/ケーブル

ケースの破損、色調の変化	YES _____	NO _____
本体の破損、表示スクリーンの破損	YES _____	NO _____
ケーブル、コネクタ部の破損	YES _____	NO _____
ケーブルは本体にしっかり接続できるか		

② バッテリー

充電ユニットが正しく作動する	YES _____	NO _____
スペアバッテリーユニットが正しく作動する	YES _____	NO _____
バッテリーが本体で充電できる	YES _____	NO _____
スペアバッテリーが本体で充電できる	YES _____	NO _____
バッテリーの使用期限が切れていない	YES _____	NO _____

③ 付属品の確認

電極パッド(2セット)	YES _____	NO _____
電極パッドが未開封で使用期限が切れていない	YES _____	NO _____
ひげ剃り(ディスポーザブル)	YES _____	NO _____
乾いたタオル	YES _____	NO _____
アルコール綿(ディスポーザブル)	YES _____	NO _____
メモリーカード/音声記録装置は正しく作動するか	YES _____	NO _____

④ 作動確認

製造会社の推奨する本体のセルフテストは正しくできたか	YES _____	NO _____
ディスプレイは正しく表示されるか(一部機種のみ)	YES _____	NO _____
点滅するインジケータは正しく表示されるか	YES _____	NO _____
音声メッセージはただしく出されるか	YES _____	NO _____
プリンター(一部の機種のみ)	YES _____	NO _____

⑤ AED テスターでの検証

ショックする波形が正しく確認される	YES _____	NO _____
ショックに必要なエネルギーがチャージされる	YES _____	NO _____
ショックが実行できる	YES _____	NO _____
ショックをしていけない波形が正しく確認できる	YES _____	NO _____

第7章 BLS+AED コース開催要領

指導の進め方

BLS+AED コースの概要やインストラクターコースへの道について解説

- ・スライドを使って説明します
- ・準備するもの
PC、プロジェクターなど

A. 一般市民を対象とした BLS+AED 講習(プロバイダー養成コース)の概要

一般市民を対象とした講習は 180 分で BLS と AED を講習することが望まれる。単に AED を使用するばかりでなく、より現実的な想定を用いて講習を行うことが望ましい。

内容 : 救命の連鎖・基本的な心肺蘇生法の手技・AED の適切な使用方法
シナリオベースの BLS+AED

到達目標 :

- ・救命の連鎖と早期除細動の概念の理解
- ・AED の到着までの基本的な心肺蘇生
- ・処置が実施できる、正しく AED を作動させ、安全に使用できること

1. カリキュラムの概要

(1) 座学

- ・BLS+AED 総論; 心肺停止の疫学・CPR・早期除細動の概念
- ・観察処置総論; 心肺停止患者処置観察の流れ(フローチャート)
- ・観察処置各論; 状況評価・傷病者観察・CPR・AED の使用
- ・心肺停止患者の観察処置のデモンストレーションと解説

(2) 実技

- ・周囲の状況の確認
- ・意識の確認
- ・119 番通報
- ・気道の確保—呼吸の確認
- ・心臓マッサージ×30 回(一人法・二人法 CPR)
- ・人工呼吸×2 回
- ・AED の使用法
- ・回復体位
- ・シナリオ用いて練習
- ・実技試験(60%以上を合格)

(3) 筆記試験

※備考

a. カリキュラム

上記カリキュラムが最低必要である。それに付加することは妨げない。

b. 筆記試験

基準点(60%以上)に満たないものは再試験を行う。

[Heart Saver Japan プロバイダー養成コース プログラム]

時間		内容
	10分	受付&オリエンテーション
35	35分	講義;「AEDを用いた心肺蘇生法」
55	20分	デモンストレーション・デモンストレーションの解説
60	5分	休憩
実技講習		
61	1分	導入
67	6分	周囲の安全確認・意識の確認・応援要請
79	12分	気道の確保・呼吸の確認
91	12分	心臓マッサージ・人工呼吸
101	10分	AEDの使用法
106	5分	通電後の対処(CPR・体動の観察・回復体位・人工呼吸)
111	5分	救急隊への引継ぎ要領(目撃情報、現在までの経緯、除細動数)
135	24分	シナリオステーション
165	30分	実技試験(OSCE5分+FB1分+準備1分=計7分×4回)
170	5分	筆記試験
175	5分	アンケート記入(イントラ:OSCE評価表、筆記試験用紙回収)
180	5分	まとめ

2. 申請について

[HSJプロバイダーコースの開催申請について]

第1 HSJプロバイダーコースを開催するものは、事前の申請、事後の報告をHSJが定める様式に従い事務局長あてにその旨を報告しなければならない。

第2 事前申請について

開催コースのコーディネーター(以下CC)、又はコースメディカルディレクター(以下CMD)は、原則コース開催予定日の30日前までにその旨を『HSJプロバイダーコース開催申請書(様式1)』により、HSJ代表または事務局長あてに事前報告しなければならない。

第3 事後報告について

開催コースのCC、又はCMDは、原則コース終了後の30日以内にその結果を『HSJプロバイダーコース開催結果報告書(様式2)』により、HSJ代表または事務局長あてに事後報告しなければならない。

第4 承認について

HSJ代表または事務局長は、事前申請された当該コースをHSJ幹事会の審議にかけ、幹事からの意義がなく、HSJ規約に示すHSJプロバイダーコースの要件を満たしていると判断したときはこれを承認するものとし、申請者に通知する。

なお、審議に際して申請内容に疑義が生じたときは、必要に応じて代表または事務局長は申請者に対して報告を求めることができるものとする。

※ コースの開催が計画あるいは決定した時点で、幹事を通じてHSJ理事会メーリングリストに開催日時と場所、CCとCMD等を明示するものとする。

※ 事前に修了証と認定証の印刷を事務局に依頼する場合は、コース開催10日前までに様式3により、事務局長まで報告すること。その際には、修了書等の送付先、コース名称、CMD、CCを明示する。

なお、受講者の氏名、ふりがなは間違いがないようにしっかりと確認すること。

3. 申請書

HSJプロバイダーコース開催申請書(様式1)

平成〇〇年〇〇月〇〇日

HSJ代表

日本太郎 様

第〇回〇〇BLS+AED 講習会

CMD 〇〇大学 △△ △△

or CC 〇〇〇大学 □□ □□

HSJプロバイダーコース開催について(申請)

平成〇〇年〇〇月〇〇日にHSJ規約に基づき下記のコースを開催いたします。つきましては、HSJプロバイダーコースとしての承認をお願い申し上げます。

記

- 1 名称:第〇回〇〇〇BLS+AED 講習会(HSJプロバイダーコース)
- 2 日時:平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇) △△:△△~△△:△△
- 3 場所:〇〇〇大学教育実習棟
〇〇県△△△市□□町〇〇番〇〇号
- 4 CMD
医師:〇〇大学医学部 △△ △△(E-mail アドレス)又は
救急救命士:〇〇〇消防本部 □□ □□(E-mail アドレス)
- 5 CC
〇〇大学 □□ □□(E-mail アドレス)
- 6 指導スタッフ(計〇〇名)
 - (1)インストラクター(計△△名)
 - (2)プレインストラクター(計△△名)
 - (3)インストラクターアシスタント(計△△名)
- 7 受講生人数(計〇〇名)

4. 報告書

HSJプロバイダーコース開催結果報告書(様式2)

平成〇〇年〇〇月〇〇日

HSJ代表

日本太郎 様

第〇回〇〇BLS+AED 講習会

CMD 〇〇大学 △△ △△

or CC 〇〇〇大学 □□ □□

HSJプロバイダーコース開催結果について(報告)

平成〇〇年〇〇月〇〇日付けで申請いたしましたHSJプロバイダーコースを下記のとおり開催いたしましたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

- 1 名 称:第〇回 BLS+AED 講習会(HSJプロバイダーコース)
- 2 日 時:平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇) △△:△△~△△:△△
- 3 場 所:〇〇〇大学教育実習棟
〇〇県△△△市□□町〇〇番〇〇号
- 4 CMD
医師:〇〇大学医学部 △△ △△(E-mail アドレス)又は
救急救命士:〇〇〇消防本部 □□ □□(E-mail アドレス)
- 5 CC
〇〇大学 □□ □□(E-mail アドレス)
- 6 指導スタッフ(計〇〇名)
(1)インストラクター氏名(計△△名)
(2)プレインストラクター氏名(計△△名)
(3)インストラクターアシスタント氏名(計△△名)
- 7 受講者氏名(計〇〇名)及び試験結果等一覧.....別紙1(様式3)のとおり

B. 一般市民を対象とした BLS + AED 講習(インストラクター養成コース)の概要

従来の BLS インストラクターで指導に当たっていた方やこの分野で専門性の高い医師・看護師・救急救命士などはインストラクターとなることが可能です。

講習時間 : 360 分

内容 : 救命の連鎖・基本的な心肺蘇生法の手技・AED の適切な使用方法、シナリオベースの AED + BLS について指導できる

到達目標 : 救命の連鎖と早期除細動の概念の理解、AED の到着までの基本的な心肺蘇生処置が指導できる、正しく AED を作動させ、安全に使用できること指導することを到達目標とする。

[Heart Saver Japan インストラクター養成コース プログラム]

時間	内容
10 分	オリエンテーション
10	Instructor Course の目的の確認 Provider Course の構成とインストラクターの役割の確認
	試験
20	筆記試験
5 分 × 人数	実技試験
65 分	指導技法
30	座学(スライド)
	デモ(とあるブースの Skill Station の風景)
5	①良いデモ
5	②悪いデモ
5	グループディスカッション
20	ホワイトボードでまとめ
4 分 × 人数	説明とプレゼンテーションスキル
20	各スキル、ツールをテーマに説明することを練習する →AED、PM、人工呼吸、心臓マッサージなど
15 分 × 人数	Skill Station
	①周囲の状況確認～感染予防～早期通報
	②気道の確保～呼吸の確認
	③心臓マッサージ～人工呼吸
	④AED の使用法～救急隊への引継ぎ
	Provider Course で用いる資器材説明とシナリオへの応用
	AED の使用法、操作、メンテナンスについて確認
	デモンストレーションと評価
5	デモ(実技試験の風景)→受講生は評価表を用い評価練習
15	評価表を用いて評価のすり合せ
15 分 × 人数	Scenario を用いた指導
	シナリオを使う/実技試験の神の声/評価の練習
	Heart Saver Japan の組織と Provider Course 開催の説明
	コースについて
	各資格について
	まとめ
	修了証・認定証授与

[インストラクター実技試験採点表]

Heart Saver Japan 実技評価表

受講者氏名 _____

実施年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

処置別評価

周囲の状況	周囲の安全の確保が出来るか	
感染予防	スタンダードプリコーションを実施	
意識の確認	呼びかけて意識の確認を行えた	
	声に強弱をつけて意識の確認を行うことが出来た(3段階程度)	
応援の要請	具体的に人を指名し、適確に指示を出すことが出来た(医師の確認、119、AED)	
気道の確保	気道の確保ができた(頭部後屈法)	
呼吸の確認	目線は胸部をみていたか(見て)	
	聞く姿勢が正しく取られていたか(聞いて、感じて)	
心臓マッサージ	心臓への圧迫方法(姿勢、腕の伸ばし方)が適切であった	
	圧迫の深さが正確であった(3.5~5cm)	
	リズムが正確であった(100回毎分)	
	上記3項目を最後まで継続できたか	
人工呼吸	胸部の挙上はあるか(上がりすぎも注意)	
	ポケットマスクを正しく扱うことが出来たか(不潔操作にしていないか)	
AEDの使用方法	AEDの使用方法が正しく使われているか(胸部の確認が出来ていたか)	
	パッドの装着は正しい位置にはれていたか	
	使用中に周囲の安全を確認できていたか	
回復体位	正しい回復体位がとれているか	
救急隊に引継ぎ	救急隊への引継ぎは正確だったか(目撃情報、現在までの経緯、除細動数)	
全体の流れ	全体を通して流れがスムーズであったか	

合計点数(40点満点中) = _____

評価点数(3段階評定)

0：出来ていなかった。

1：だいたい出来ていたが、少し不安な点が見られた。

2：出来ていた。

コメント _____

評価者氏名 _____

合格判定 (優・良・不可を○で囲む)

優(32点以上) ・ 良(24点以上 32点未満) ・ 不可(24点未満)

Heart Saver Japan 規約

第1章 総則

第1条 本会はHeart Saver Japan(以下HSJ)と称す。

第2条 本会はわが国における一般市民に対し応急処置・観察能力を教え、心肺停止患者の救命率の向上と早期社会復帰を図ることを目的とする。

第3条 本会の事務局を国士舘大学体育学部内におく。

第4条 本会は上記の目的を達成するために次の事業をおこなう。

- 1 HSJプロバイダー養成コース(コースの要綱は別に定める)
- 2 HSJインストラクター養成コース(コースの要綱は別に定める)
- 3 その他のコース、講演会、出版、WEBなどを通じた普及啓発活動
- 4 同様の目的をもつ国内外の団体との交流
- 5 印刷物やCD、DVDなどの出版

第2章 会員

第5条 会員はプレインストラクターおよびインストラクターからなる。

第3章 役員

第6条 本会に次の役員をおく

- 1 理事長 1名
- 2 副理事長 2名
- 3 理事 10名
- 4 監事 1名
- 5 本部事務担当 3名(事務局長1名、事務局長補佐2名)

第7条 本会の役員は次の規定により選出する

- 1 理事は理事長が指名し、委嘱する。
- 2 本部事務担当は理事長が指名し、委嘱する

第8条 役員の仕事

- 1 理事長は会務を統括する。
- 2 副理事長は理事長を補佐する。また、理事長がその職務を遂行できないとき、それを代行する。
- 3 理事は本会の運営にかかる重要事項を審議する。
- 4 理事は、本会の運営に必要な事項を審議するほか、開催されるコースの質を評価し、必要と認めた場合には指導または助言を行う。
- 5 監事はHSJの運営ならびに資金収支が適切であるか否かを監査する。
6. 本部事務担当は、HSJ運営に関わる本部事務を担当すると共に、ホームページやメーリングリストの管理を行う。

第9条 役員になるものは医師または救急救命士、その他の職種により構成する。

第10条 退任を申し出た役員または、職務の履行が不十分とされた役員または、本会の威信を失墜させた役員は理事会の議を経て解任される。
役員が死亡した場合は自動的に解任される。

第4章 理事会

第11条 理事長、副理事長、理事で理事会を構成する。

第12条 理事会は本会の運営、事業に係るすべての重要事項を審議決定する。

第13条 年1回、定例理事会を開催する。理事会は理事長が招集して議長を務める。

第14条 理事長が必要と認めるとき、また理事3名以上の要請があるとき、理事長は臨時理事会を開催しなければならない。臨時理事会は持ち回り審議またはメーリングリスト上で開催することができる。

第15条 理事はHSJコースのカリキュラム、コース開催要件、資格認定等、HSJの質の管理にかかるすべての事項を審議決定すると共に、HSJにおいて開催されるコースの質を評価し、必要と認めた場合には指導または助言を行う。